



青虫であったときの記憶

自民党総務会副会長
名誉顧問 藤井基之



毎日の食事に野菜は欠かすことができません。野菜は美味しいだけでなく、その鮮やかな色合いにより、食卓を美しく彩ってくれます。

しかし、野菜の効用はそれだけではありません。野菜にはたくさんのカリウムが含まれています。カリウムには、体の余分なナトリウムを排出する働きがあるため、顔や体のむくみを取り除いてスッキリさせてくれます。

豊富な食物繊維は、お腹の中の腸内細菌に良い影響を与えてくれます。そして、日常の疲れが取れやすくなり、リフレッシュした気分らせてくれます。そんな素晴らしい野菜ですが、実にやっかいなものも付いています。

それは青虫です。大きな青虫は調理の段階でヒヨイヒヨイとつまんで取り除くことができますが、小さな青虫はつい見過ごしてしまいます。たまに野菜のスープに小さな青虫が浮いていることもありすが、少しびっくりさせられます。

定食の付け合わせのキャベツにも、小さな青虫がいることがあります。この場合は、皿の周りを懸命に歩いていますので、思わず箸を落としてしまうほど、びっくりしてしまいます。

とはいえ、青虫が付いているということは、農薬がかかっているに安全な野菜である証拠でもあります。そもそもキャベツに青虫が付いていない方が不自然ですからね。

皆さんご存知でしょうが、青虫は蝶や蛾の幼虫です。

蝶や蛾の幼虫のうち、毛のあるものは毛虫、毛のないものは芋虫といいますが、そんな芋虫の中には実に奇妙な歩き方をすることもいます。

後ろ足で枝を掴み、細長い体をピンと伸ばします。次に前足でしっかりと枝を掴み、後ろ足を枝から離して前方に引き寄せます。こんな形。再び、後ろ足で枝を掴み、細長い体をピンと伸ばし、前足でしっかりと枝を掴みます。

この動作を繰り返して歩いていくのですが、この動きが、大工さんが木材の長

さを測っているようにも見えます。昔風にいえば、尺を取っているように見えることから、このような芋虫は、特に尺取虫と呼ばれています。

彼らは、農作物を食い荒らしてしまうので害虫扱われていますが、とてもおとなしい昆虫です。

もっとも、どこの世界にも変わり種はいるようで、ハワイにはとても猛猛な尺取虫がいます。

ハワイの尺取虫も葉っぱの上で生活していますが、こちらは農作物には何の興味も示しません。柔らかな葉っぱを噛むこともありません。

ハワイの尺取虫は、長い時間の中で独特の進化を遂げており、なんと、肉食性なのです。

自分はカマキリであると思込んでいるかのように普段から、かまへの姿勢をとっており、小さな羽虫が近づくと、素早く体を反転させて短い前足で羽虫を押し込め込み、ムシヤムシヤと食べてしまいます。

ハワイには元来カマキリがいまいませんでしたから、尺取虫がカマキリの立ち位置

に収まってしまったのかもかもしれません。緑色をした芋虫は青虫と呼ばれますが、やがては蛹になり、空を舞う美しい蝶や蛾に成長していきます。

蝶や蛾は、その容姿も食性も何もかもが青虫であった頃と違っています。分かってはいても、本当に青虫が成長したもののかと疑いたくもありません。

燦々と降り注ぐ陽光の中で花々の間を飛びまわる蝶、闇の中をひらひらと舞い踊る蛾に訊いてみたいものです。

彼らは以前の自分たちのことをどのようか思っているのでしょうか。果たして葉っぱの上で生活していた頃の記憶は残っているのでしょうか。

結論からいえば、蝶たちに、青虫であった頃の記憶は残っていません。なぜなら、蝶は、青虫とは別の個体で

あるためです。別の言い方をすれば、胚を二つ持っているためです。

生物のごく初期の段階の個体のことを「胚」といいますが、蝶のように蛹になる昆虫の場合、卵が細胞分裂を始めるごく初期の段階で、胚が二つにわかれていきます。

一つは細胞分裂を続けて青虫という個体になります。

もう一つの胚は、そのまま休眠状態となり、やがて青虫の体内奥深くに埋め込まれていきます。

つまり、青虫は一つの個体でありながら、その体内に別の個体を宿しているわけです。

青虫はモゾモゾ歩き回り、モリモリ食事をしながら体内に栄養分を蓄えていき、やがて活動を停止し、蛹になります。

蛹の体内ではどのような変化が起こっているのでしょうか。

それは、青虫であった頃の体がきれいに溶けて、栄養スープになる一方、休眠状態であったもう一つの胚が目覚め、細胞分裂を再開しているのです。

この胚は、栄養スープを糧にして細胞分裂を続け、蝶という個体に育っていきます。

つまり、青虫と蝶は、一見、同じ個体のように見えますが、実は別の個体であるといえるわけです。

美しいアゲハ蝶に、幼き頃の記憶はありません。

「昔はあんな芋虫だったんだよ」と教えてあげても、きっと信じないでしょう。

ふじいもとゆき 藤井 基之

- 生年月日 昭和22年3月16日
- 選挙区 参議院比例区
- 当選回数 3回
- 出生地 岡山県岡山市
- 趣味 音楽・読書
- 個人ホームページ <http://www.mfujii.gr.jp/>
- その他 薬学博士・薬剤師
- 政治信条 私の政策の柱はA(エイジフリー)B(バリアフリー)D(ドラッグフリー：薬物乱用のない社会)社会創りです。高齢者も、障害を持つ方も、国民誰もが安心して暮らし、元気で生活を送ることのできる長寿健康社会を創るために何が必要か、を政治活動の根拠においています。好きな言葉「昨日の夢は、今日の希望、そして明日の現実」
- 活動報告 参院議員厚生労働委員会理事等として、食品安全確保のための食品衛生法改正、健康増進法改正、薬事法改正、薬剤師法改正、クリーニング業法改正、国民年金法改正等に関する。
- 経歴
 - 昭和37年 岡山大学教育学部附属中学校卒業
 - 昭和40年 岡山県立岡山操山高等学校卒業
 - 昭和44年 東京大学薬学部薬学科卒業
 - 昭和44年 厚生省入省
 - 平成9年 厚生省退官
 - 平成9年 財団法人ヒューマンサイエンス振興財団 専務理事
 - 平成12年 日本薬剤師連盟 副会長
社団法人日本薬剤師会 常務理事
 - 平成13年 参議院議員(1期目)
 - 平成16年 厚生労働大臣政務官
(平成16年9月~平成17年11月)
 - 平成22年 参議院議員(2期目)
 - 平成23年 参議院政府開発援助等に関する特別委員会 委員長
 - 平成24年 自由民主党広報本部 副本部長
広報本部新聞 出版局長
 - 平成25年 自由民主党党紀委員会 委員
裁判官弾劾裁判所 裁判員
 - 平成26年 原子力問題特別委員会 委員長
文部科学副大臣
 - 平成27年 自民党政務調査会 副会長
参議院政策審議会 筆頭副会長
参議院厚生労働委員会 委員
 - 平成28年 参院沖縄及び北方問題に関する特別委員会 委員長
参議院厚生労働委員会 委員
国土審議会
離党振興対策分科会 特別委員
参議院議員(3期目)
自民党総務会 副会長